

令和7年度（2025年度） 大分大学一般選抜試験問題

出題の意図

小論文

（医学部先進医療科学科）

※この出題の意図についての質問・照会には一切応じません。

1

引用した問題文は外山滋比古著「思考の整理学」からの抜粋である。1983年刊行、1986年に文庫版として第一刷が発行されている。問題文は「コンピューター」と題した文章であるが、筆者が指摘した当時の問題点は、今から約40年前に書かれたとは思えないほど現代社会が抱えるものと一致している。当時は、コンピューターが普及し始めた頃であり、記憶や再生が人にとって代わるものとして書かれている。現代は人工知能（AI）がさらに人の考えや創造的な仕事さえ奪ってしまうのではないかとその脅威が叫ばれている。

さらには、産業革命時も人間自ら発明した機械に取って代わられるという危機が述べられている。本問では、時代がかわっても常に人間、また人間社会が抱える問題に大きな違いはなく、歴史の中で繰り返されていることなどがこの文章から理解できているか、また、現代社会が抱えるAIなどの問題を人間がどのように解決し真に人間らしくあるために必要なものをみつけられるか、それを短い文章で表現できるか、を問う問題である。

2

先進医療科学科は、医療マネジメントの知識と技術を備えた、未来の医療を研究・開発できる人材を創出することを目標としている。そのためには、医療のみならず、社会問題を考察できる能力が必須である。まず、人口ピラミッドから、超高齢化社会や少子化による人口減少の問題点を抽出し、これが原因で起きる医療費の国民負担の増加を国民医療費のグラフから読み取ってもらいたい。その上で、我が国における将来の医療において経済的な視点から問題点を抽出し、考察できる能力を問う。